

ようこそ 図書館へ

第4号

2008年4月
津市図書館

おもな内容 シリーズ図書館活用法(5)
シリーズ図書館の仕事(3)
レファレンス事例集
知ろう私たちの郷土



おはなし会に
登場するグッズあれこれ!
楽しいおはなしといっしょに
みんなを待ってるよ





お探しの本は見つかりましたが 本探し指南“としょかん生活”

図書館ホームページ上に図書館での本探しをするときのお役立ち情報として“としょかん生活”があります。テーマをきめて本を探すときのマニュアルを紹介しています。今回はこの“としょかん生活”をご案内いたします。

② ennaときには・・・

「読みたい本がなかなか見つからない」「なんとなくこんな本が読みたいけれど、探し方がわからない」なんて経験をされたことはありませんか。

少しのルールとちょっとしたコツをつかめば、本に出会うのは以外に簡単。ここでは、気になる本選びから実際に図書館で本に出会うまでをご紹介します。

③ 本探しの方法には・・・

どの棚にどんな内容の本があるかがわかる館内配架図を参考にしたり、館内端末、インターネット、携帯電話から蔵書検索をして探す方法があります。(もちろん図書館職員に聞く手もあります)

④ 探し方のコツは・・・

* コンピュータを使って調べると

本の情報である書名や著者名がわかっているならば、たやすく本にたどり着くことができます。でも、手がかりが少ない場合やこんな内容の本を探したいといった場合は、まず気になることばや関係のありそうなことばを探し、キーワードとします。キーワードが決まったら書名のところに入力してみます。その言葉が含まれているあらゆる分野の本が表示されますので、ご希望の本を選んでください。思いもよらなかった本がでてきて思わずクスッとすることも。(コンピュータってヘン?)

ここで注意!!

- ・長い言葉では、なかなかすべて一致する本は見つかりません。短い言葉で部分的に一致するものを探してみましょう。
- ・コンピュータは便利なようで融通がききません。一文字違うと検索できないこともあります。あやふやなタイトルよりも、確実な言葉で検索してみてください。二つの言葉を入れて検索することもできます。

⑤ 本が見つかったら・・・

* 請求記号をみる

図書館の本には場所を示す請求記号がついています。この請求記号によって本が並んでいますので、これを

手がかりに本にたどり着くことができます。また、同じ内容の本が並んでいるので書名で見つからなかった本との出会いもあります。(本の背ラベルに記載されています)

⑥ 他の資料を活用する・・・

・雑誌で調べる

変化の激しい現代社会では、時代に応じた情報を取り上げている雑誌は有効な資料です。雑誌の種類によって異なりますが、過去の雑誌も保存しており、最新号以外は貸出ができますのでご利用ください。

・インターネットで調べる

図書館のインターネット端末から各種データベースを利用して調べることもできます。図書館で所蔵していない資料や調べるための情報収集に活用することができます。

・調べる本を活用する

図書館には本を調べるときに参考になる本もあります。これらは探しやすいように編集されていますので便利に活用できます。

本をお探しのときはお気軽に図書館員にお尋ねください。

今までにホームページで紹介した
“としょかん生活”のバックナンバーです。

- ◆ 1 号 はるのまき
「ちょっと不便がちょうどいい暮らしのみつけ方」
- ◆ 2 号 Soccerのまき
「WORLD CUP-24人目の日本代表への道」
- ◆ 3 号 なつのまき
「きょうの星の数はいくつですか？」
- ◆ 特集号 なつやすみこども版
「なつやすみをけんきゅうしよう」
- ◆ 4 号 あきのまき「シネマ・パラダイス」
- ◆ 番外編 「しおりいらすのー気読みリスト」
- ◆ 5 号 ふゆのまき「資格の春」
- ◆ 6 号 はるのまき「道具」
- ◆ 特集号 なつやすみこども版なつやすみ発見編
- ◆ 7 号 ふゆのまき「古典的音楽に夢中」

<http://www.tosyo.city.tsu.mie.jp>

児童サービスってなに？

図書館では、子どもを対象に支援やサービスを行う分野を特に「児童サービス」と呼んでいます。今回は、児童サービスとしてどんな仕事をしているのか、紹介していきたいと思います。



☆対象は何歳～何歳まで？

津市図書館では、0歳～中学生までの子どもを対象として児童サービスを行なっています。赤ちゃん絵本から幼年文学、絵本、小説、調べ学習用の資料など、さまざまな年齢の子どもにも利用してもらえる本がたくさんあります。

中学生くらいになると、児童コーナーに入るのちょっと恥ずかしい…なんて人もいますが、中高生や大人の人にも読み応え抜群の本が目白押しです。ぜひ、足を運んでくださいね。

☆こんな仕事をしています

【図書リストの作成】

本を選ぶときの参考にしてもらえるように、新しく入った本やおすすめの本のリストを年齢や学年別などで作成しています。何かおもしろい本はないかな～と思ったら、このリストをご覧ください。

【おはなし会の開催】

定期的におはなし会を開催しています。読み手、語り手は職員や地域のボランティアの方です。ストーリーテリングや絵本の読み聞かせを通して、子どもたちがたくさんのおはなし、本に興味を持ってくれたらと思っています。開催をお知らせ

せるために、おはなし会カレンダーも作成しています。

【児童コーナーの飾りつけ】

明るく楽しい雰囲気子どもたちを迎えられるように、季節の飾りや折り紙、イラストなどで児童コーナーやおはなしのへやを飾っています。

【テーマコーナーの作成】

季節の行事やその時々話題、子どもたちの好きなものなど、さまざまなテーマで本を集めてコーナーを設置しています。棚の中に入っているとあまり気付かれない本や、おすすめしたい本など、このコーナーを使って紹介することができます。

【行事・講座の企画、運営】

図書館をより身近に感じて足を運んでもらえるように、子どもたちを対象に楽しい行事を実施しています。また、大人の方には子どもと本について学べる講座や、読み聞かせやストーリーテリングの手法を学べる講座などを実施し、子どもの読書環境がより豊かなものとなるよう働きかけています。

【新しく購入する児童書の選書】

新しい本が次々に発売されていますが、子どもたちにとってよりよい本を見極めて購入することも重要な仕事の一つです。また、子どもたちがどんな本を求めているのか、ということにも気を配りながら、どんな本を購入するか、新刊情報をチェックしています。

☆こんな姿を見かけたら…

職員が棚の前に立って絵本をばらめくっている姿、時々見かけませんか。これはおはなし会で読む絵本を選んでいくのです。次は何を読もう、これなら楽しんでくれるかな、といったアンテナを伸ばして棚の周りを歩いています。

ここにあげた以外に、カウンターでの貸出・返却業務、返ってきた本を棚に戻す返本業務、棚の整理等も日常的な仕事として行っています。他にも、子どもたちが本を探するときのお手伝いや、調べもののお手伝い、おすすめの本の紹介や調べ学習で活用できる本の紹介などなど、個々の子どもたちとコミュニケーションを取りながら、よりよい本の提供を心がけています。

レファレンス 事例集

こんな
レファレンスが
ありました

No.1

- Q. 津市の四天王寺に伝わる七不思議とはどんなものか。
- A. 津駅から南へ1kmのところにある塔世山四天王寺は曹洞宗の中本山で、聖徳太子が建立したと伝えられている。藤堂高虎ゆかりの寺でもあり、重要な文化財も多くある。七不思議の記述についての資料は少ないが、「津市案内記」（津市役所発行 分類231）、「津市郷土読本」（津市教育会分類231）によると、「血天井・景清鎧掛松・亀の甲の三尊像・蛇の鱗・薬師堂の瓦・風呂神・生佛」が四天王寺の七不思議の伝説とある。

No.2

- Q. 「ケラ」と呼ばれる着物があるというが、どんな着物のことをいうのか
- A. 蓑の一種で使用目的や地方によって呼び名が違う。藁などで作られた防寒・防雪・防雨又は物を背負うときに背につける合羽のようなもの。「日本民具辞典」（ぎょうせい 分類383）で調べると「蓑のことをケラとよぶ地方は東北の北部に多く、蓑を着た形状が虫のケラや鳥のケラ（キツツキのこと）に似ているところからの呼称という。秋田県や岩手県の一部に蓑とケラを区別して呼ぶ地方もあり、雨雪を防ぐための幅広いものを蓑といい、小型でおもに荷背負い用としてつかわれているものをケラといっている」との記述がある。

No.3

- Q. 松阪木綿と伊勢木綿の違いについて知りたい
- A. 伊勢産の木綿は、その産地に依じて松阪木綿、伊勢木綿（津地方）、神戸木綿（鈴鹿地方）と呼ばれており、製品に特に相違があったわけではない。津地方には元禄年間四軒の綿問屋があったが、松阪の集荷問屋の力が極めて強いので、ことごとく松阪に集中し、伊勢産木綿は「松阪木綿」の名で江戸へ送りこまれることになった。安価で通気性、保温性にすぐれた綿の普及に加え、伊勢松阪木綿特徴のため縞柄と品質の良さで人気を博した。「伊勢商人」（伊勢商人研究会 分類672）、「伊勢商人の世界」（三重県良書出版会 分類672）

No.4

- Q. 小倉百人一首で下の句「にほひぬるかな」しかわからないので上の句が知りたい
- A. 上代から近年末期に至る名歌3,000余を集めて、適切な解釈を加えた名歌辞典がある。この辞典には初句・第二句・第三句・第四句・第五句のどれからでも引くことができる便利な索引がついている。索引で「にほひぬるかな」をみると、「いにしへの奈良の都の八重桜けふここのへににほひぬるかな」の句であることがわかり、通解、作者、出典等の情報が記載されている。
- 「通解 名歌辞典」（創拓社 分類911.1）



図書館員のひとごと

図書館員とシップ薬？

昨年12月1日に芸濃図書館・美里図書館・津図書館のコンピュータシステムが統合され一つになりました。

残りの図書館も順次統合に向けてそれぞれの作業を開始しています。

香良洲町にある小さなきらめき図書館でも、統合後のシステムに

あわせたバーコードラベルの張り替え作業が始まり、毎日毎日書架から本を運び出し埃と本と格闘しています。

よく、利用者の方に「楽そうではない仕事ですね」と言われるのですが、いいえ、そんなことはありません。女性の細腕で書架から重い本を降ろし、バーコードを張替え、元に戻す作業は、結構重労働。日

夜筋肉痛との闘いです。そこで、シップ薬が必要不可欠となるのです。

でも、全作業終了後には書架もきれいになり、利用者の皆さんに図書館がより一層使いやすくなることでしょう。それまでは、シップ薬と仲良くしながら、作業を進めていきたいと思っています。



知ろう私たちの郷土

学問への入門書、本居宣長著『うひ山ぶみ』 中川 豊

津図書館が所蔵する特殊コレクションの中に、本居宣長著『うひ山ぶみ』（橋本L12.1-118）があります（写真）。これは宣長が35年をかけて完成した世紀の大著作『古事記伝』を執筆し終えた寛政10年（1798）に著されました。ときに宣長69歳。学問に志す初心の者はまずどのような本を見たらよいのか、いかに学ばよいか、ということをも門人からしきりに乞われたことがきっかけとなり、筆を執ったようです。タイトルの「うひ山ぶみ」の意味は、「うひ（初心）」の者が「山道」を「ふんで（踏）」いくにはどのようにしたらよいのか。つまり勉強、学問をしていこうと志した初心者への入門書という意味になります。では宣長はどうアドバイスしたのでしょうか。

注目したいのは、見るべき図書、勉強の順序、学び方といったことについては積極的に説いていないということです。学問のしるべとして「このようにするといいですよ、というのはたやすいことであるのだが、そのように教えた通りにしたところで、はたしてよいものであろうか。」と言っています。師が教えた通りに、弟子が忠実にそれを行っても決してよくはないと言っているのです。なぜ、よくないのか。理由は、個人個人によって、できのいい人もいるが、逆によくない人もいます。興味のありかもそれぞれ違うからだと考えていたようです。「学問のなかでも好きなものと、好きでないものがある。また、生まれつき得意なものとそうでないものがある、同じように努めても、それなりの効果がある人と、

そうでない人がいる」と言っています。算数の問題を早く解く子もいればそうでない子もいます。上手に漢字を書く子もいればそうでない子もいます。早く走れる子もいればそうでない子もいます。現として、才能の所在は個人によって異なるわけで、好き嫌いは誰にでもあるわけで

す。ですから一概に、ああしろこうしろとはいえない、押しつけてはいけない、といているのでしよう。宣長は「その人の心まかせにしてよい」、好きなようにやればよいと放任しています。ただ、ここで注意しておきたいのは、この宣長の考えは、あくまでも学問に志した人々へのアドバイスであって、現代の義務教育を受ける小中学生や、義務教育の延長線上として学ぶ高校生には必ずしもあてはまらない、ということなのです。

そして、宣長はこう結論付けます。「学問はただ年月長く、怠けずに励んで続けていくことこそが肝要なのだ」と。かつ、晩学・時間がない、といった人々をも応援しています。晩学の人でも思いのほか功績をあげることはあり、時間のない人でも時間のある人よりいい結果を出す人もいます、といています。宣長の強調したかったのは、やはり学問の「継続」だったようです。

宣長は学問の継続を登山に例えていたのかもしれませんが。山の頂上に辿り着くには、ルートは決して一つなのではなく、いくつもあるわけです。そして、個人差によって遅かったり早かったりします。若くして登り始める人もいますし、そうでない人もいます。植物採集しながらゆっくり登る人もいます。ときにはアクシデントにあたり、道に迷うこともある。そのときこそ師が導くのです。休憩せずにはゆっくりでもいいから前進しなさい…。宣長はこのように論じたかったのではないのでしょうか。

参考図書

本居宣長についての入門書として『鈴せんせい歴史漫画本居宣長のすべて』・『宣長の青春 京都遊学時代』があります。宣長の著作、関係した人物、事項などについては『本居宣長事典』が充実しています。『本居宣長記念館 名品図録』は宣長の代表的な著作を写真掲載して解説を付しています。『本居宣長全集』も揃っております。以上の図書は館内2階レファレンス室内にございます。『うひ山ぶみ』は原文では、日本思想大系40『本居宣長』に、現代語訳であれば『日本の名著21』に収録されています。また、この執筆にあたり林望『知性の磨きかた』所収「本居宣長先生の学問論」を特に参照しましたことを附記しておきます。これらは1階の一般書架にございますのでメインカウンターにてお問い合わせください。



本居宣長著『うひ山ぶみ』



休館日・開館時間などのご案内

下記の休館日のほかに特別整理期間（年1回、14日以内）や、臨時に休館することがあります。詳しくは、各館の図書館カレンダーや図書館たいむず、津市図書館ホームページなどをご覧ください。

館名	開館時間	休館日
津図書館 西丸之内23-1 津リージョンプラザ内 TEL 229-3321	平日 9:00～19:00 土・日曜日 9:00～17:00	火曜日 祝・休日 毎月最終木曜日 12月28日～1月4日
久居ふるさと文学館 久居東鷹跡町2-3 TEL 254-0011	平日 9:00～18:00 土・日曜日 9:00～17:00	火曜日（祝・休日にあたるときは、その翌日） 祝・休日 毎月最終木曜日（祝・休日にあたるときは、その翌日） 12月28日～1月4日
ポルタひさいふれあい図書室 久居新町3006ポルタひさいふれあいセンター内 TEL 254-0464	平日 10:00～21:00 土・日曜日、祝・休日 10:00～18:00	12月29日～1月3日
河芸図書館 河芸町浜田782 TEL 245-5300	10:00～18:00	火曜日（祝・休日にあたるときは、その翌日） 祝・休日（土・日曜日にあたることを除く） 毎月最終木曜日（祝・休日にあたるときは、その翌日） 12月28日～1月4日
芸濃図書館 芸濃町椋本6824 津市芸濃総合文化センター内 TEL 265-6004	9:00～17:00	火曜日（祝・休日にあたるときは、その翌日） 毎月最終木曜日（祝・休日にあたるときを除く） 12月28日～1月4日
美里図書館 美里町三郷51-3 津市美里文化センター内 TEL 279-8122	9:00～17:00	火曜日 祝・休日 毎月最終木曜日 12月28日～1月4日
安濃図書館 安濃町東観音寺418 津市サンヒルズ安濃内 TEL 268-5822	10:00～18:00	火曜日 毎月最終木曜日 12月28日～1月4日
きらめき図書館 香良洲町2167 津市サンデルタ香良洲内 TEL 292-4191	9:00～17:00 （7・8月の平日は 18:00まで）	火曜日 祝・休日（土・日曜日にあたることを除く） 毎月最終木曜日 12月28日～1月4日
一志図書館 一志町井関1792 津市とことめの里一志内 TEL 295-0116	10:00～18:00 （7・8月の平日は 19:00まで）	火曜日（祝・休日にあたるときは、その翌日） 祝・休日 毎月最終木曜日（祝・休日にあたるときは、その翌日） 12月28日～1月4日
うぐいす図書館 白山町二本木1139-2 津市白山総合文化センター内 TEL 262-5000	平日 10:00～19:00 土・日曜日 9:00～17:00	火曜日（祝・休日にあたるときは、その翌日） 祝・休日 毎月最終木曜日 12月28日～1月4日
美杉図書室 美杉町八知5828-1 津市美杉総合開発センター内 TEL 272-8092	9:00～16:30	土・日曜日 祝・休日 12月28日～1月4日

本の返却は期限内に

ようこそ図書館へ 第4号

発行日/平成20年4月1日 編集及び発行/津市教育委員会 津市津図書館
三重県津市西丸之内23番1号 津リージョンプラザ内 TEL (059) 229-3321